

労働組合戦線統一に関する件

中央執行委員会

主文 本大会は現下の紛亂せる労働組合戦線の統一のために左の方針を決定す

方針

- 一、我黨は、労働組合の全般的階級的統一を以て根本方針とす。
- 二、此の根本方針を實現するために先づ、我黨支持労働組合の強力なる統一を邁進す。
- 三、統一方針を眞にして支持労働組合に意見の對立を來し、分野を劃するに到れる現状は、速かに打破せざる可からず
- 四、日本労働俱樂部は、大右翼結成の傾向を有し、統一協議會は對立分離主義に傾するの危険性を有す。兩者の實質的な解體統一に依る、全國労働組合會議の結成こそが、我黨方針の具現なりとす。
- 五、我黨支持労働組合は、此の大方針に基いて、日本労働俱樂部の偏向を打破し、統一協議會の狹隘性を清算し、以て全國労働組合會議に發展せしむることを要す。
- 六、日本労働俱樂部の反動性は、積極的方策に依つて、これを打破せざる可からず。之が戦術として、積極的に、日本労働俱樂部の門戸解放を要求せしめ、統一ある戦術と、執効果敢なる闘争に依つて、眞に戰局的なる全國労働組合會議獲得のキャンペーンを起すことが、統一主義の執る可き任務とす。
- 七、全國労働組合統一會議の、理想形態は、産業別合同の完成なり。我黨は此の目標の下に、支持労働組合の産業別合同の完成に向つて、先づ最善の努力を拂ふ。

八、我黨は、労働組合の統一を實現するに當り、階級的に此の方針の實現のため支持労働組合と協力邁進す。

久しき間みである労働組合の統一は、日本労働俱樂部の反動勢力の擴張を前にして急速に統一の方向に進み來つた。然るに、その間に出現した日本労働俱樂部の『問題を中心として労働組合戦線統一運動は却つて混亂を生じ、我が黨支持の労働團體間に於てすら對立を生ずるに至つた。黨はこの状態に對して極力背後から意見の統一を計るべく努力し來つたが、擴大中央執行委員會は急迫せる時局に鑑みて本方針を決定したのである。

本方針の精神は

- (一) 全國労働大衆黨を支持する労働團體間に於ける意見の統一を最大限に計ること
 - (二) 日本労働俱樂部をめぐつて生じたる大にしては全國労働總聯合對統一協議會の對立、小にしては全國労働内部に於ける賛成派反對派の分野を急速に打破せんとしたること
 - (三) これがためには階級的に支持團體の統一を恢復し、これを『單一無産政黨單一労働組合』の標榜たらしめんと期したること
- にあつた。然かも支持労働團體の一部が日本労働クラブに加盟し一部がこれを粉碎するための團體に所属すると云ふが如き現状に於ては全線的統一に關する一定の見透しを立て、積極的、進取的にこれを解決するの出来ない不可能である。それ故本方針は、全線的統一を以て組合戦線統一の目標と定め、これが具體的手段として黨支持労働團體内の緊密なる連絡統一の實現を以て第一歩とし、以て目下急迫の困難たる日本労働クラブの問題を解決せんとしたのである。

要するに無産政黨の戦線統一が漸く一段落を告げ、黨が積極的の活動に轉すべき重要なる時機に、黨内に意見の對立を來し分野を劃するが如き出現を避けなければならぬ。殊に外帝國主義戦争の危機迫り、内反動運動の氣運漸く濃厚ならんとする時無産戦線の動搖を繰り返すが如きは無産運動の全般的信頼を失ふ所以である。

かゝる意味に於て黨分裂への些少なる危険性と雖もこれを阻止せんとするのが黨本部の念願である。